

皆様方は、各界各層にあって、それぞれベテラン、中堅、若手として、上層部や周囲から期待されるなかで、持ち前の手腕と能力を遺憾なく発揮され、充実した日々をお過ごしのことと推察致しております。

日頃は、本校の発展のために、陰に陽に何かとお力添えを賜りまして、誠に有り難うございます。お蔭様を持ちまして、地域社会から厚い信頼と期待を寄せられつつ、地域の拠点校として維持進展することが出来、共々に矜持と感謝の気持ちを共有できることを喜ぶ次第であります。

私事ではありますが、今春の三月末をもちまして、三十八年に亘る教員生活にピリオドを打つことが出来ました。特に、最後の勤務校を憧れの一宮西高等学校で、四年間も送る事が出来ましたことに感慨も一入のものがあります。

現今の教育界をめぐるさまざまな問題や状況は、戦後教育が曲がり角にあることを如実に示しております。非行の低年齢化や凶悪化、不登校乃至登校拒否者の漸次的増加、後を絶たない陰湿な「いじめ」問題、短絡的・衝動的なナイフ所持問題、そここに日常的に散見される規範意識の希薄化やモラルの低下等々枚挙に暇がない現況であります。

しかし、本校は不登校に若干の危惧は感知されるものの、このような危機的な教育状況とは無縁にひとしく、良好な校風と培われた伝統と歴史の中で、順調な軌跡を

辿っております。

平成元年から愛知県の高校入試に導入された複合入試選抜制度もすっかり定着しております。

この間、本校の特徴的な傾向を概観してみますと、第一に進学状況は、毎年卒業生の過半数が国立立大学への進学を成就し、かつ、現役合格率が九〇％を常に越えていることであります。これは、学校群時代からの進学実績に裏打ちされたノウハウと指導法が脈々と生きており、教師の熱意と努力とが相まっての集積がもたらした何よりの証左であると言えましよう。

第二に、部活動の活発さが挙げられます。平成になってから、高校総体尾張支部予選大会に四度にわたって総合優勝を勝ち取ったことは、いやがうえにも、活動実績の輝かしさと存在感の大きさを知らしめたと言えましよう。演劇部や箏曲部をはじめ、文化部系の活躍も目立ちました。

第三に、学校行事の盛況を指摘できます。

年に二度の球技大会、予餞会、修学旅行等さまざまな行事の中で、なんといつても圧巻は西高祭であります。生徒の自主的にして意欲的な取り組みと発表は、伝統と斬新を織りまぜながら、すっかり地域社会にも馴染みの行事として受け入れられ、充実発展を遂げてまいりました。

二十一世紀を展望する中で、いかに変化の激しい時代であろうとも、更に西高が特色のある、魅力のある高校として伸び続け、卒業

後幾星霜を経た後、懐かしく青春時代を回顧する際に、西高を想起し懐旧の情に思いを募らせる高校であってほしいものと、心底より念願を致しております。

どうか同窓生の皆様、共に西高を学び舎とした同胞として、今後とも本校の行末を温かく見守っていただきたくお願い申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

転任の先生からのメッセージ

同窓会と歩んだ十四年

山内 清生

母校である西高に十四年間勤め、このたび一宮北高校に転任になりました。西高では毎年担任を持たせてもらい、生徒と一緒に楽しく充実した日々を送ることができました。特に五回にわたり、三年生担任の立場から後輩たちの門出を見送ることができたことは、大変幸せでした。

振り返れば、私の西高での十四年間は同窓会活動とともにありました。私が西高に赴任したのは、創立二十周年記念式典の翌年でした。当時同窓会は名ばかりの存在で、二十周年を機に同窓会活動の活性化が大きな課題となっていました。まもなく宇佐美武嗣先生、田中博先生があいついで転出されると、年齢的に私が事務局の中心となり、役員の方々や多くの先生方に助けられながら、同窓会活動の整備に取り組みました。毎年の

会報発行・総会開催を決め、実行に移したほか、役員・常任幹事の体制づくりを推し進めたり、会則や内規の見直しを行ったりしました。また、会員名簿を十年おきから五年おきに刊行するようにしました。こうして創立三十周年記念式典が行われた平成五年までには、どうか同窓会活動を軌道に乗せることができたと思っております。名古屋ヒルトンで行われた創立三十周年記念総会の盛会ぶりには、今でも強く印象に残っています。三十周年以後は、総会の中で学年同窓会を開くことが慣例となったこともあり、毎年一〇〇名を優に越える会員の方々に参加していただいています。かつて総会といえば、人集めに腐心していたのが嘘のようです。

十四年間同窓会を担当して実感したことは、卒業生の皆さんが、たとえ卒業してから長い年月が経つていようと、それぞれに西高に強い愛着をもっているということです。その思いが、今後とも同窓会活動をもり立てていくエネルギーになるに違いありません。これからは私も一同窓会員として、西高の進路を外から見守るとともに、少しでも同窓会のお役に立つようなことができればと思います。西高の、そして西高同窓会のみならずの発展を心より祈っております。

第九回生 塚本 義光

この度の異動で一宮奥道高校に転任しました。母校一宮西高校には十五年間お世話になり、担任をはじめ生徒会部や保健部に携わり、生徒・職員に恵まれ様々なことを学ばせていただきました。また、西高の歴史にじかに触れ、ますます発展している西高に誇りを持っています。これからも、文武両道は永遠のテーマだと思いますが、必ず西高ならできると確信しています。

さて、西高の思い出はたくさんありますが、野球部の監督でしたので特に野球部は印象に残っています。平成元年と昨年の平成九年の夏の愛知大会でベスト8まで勝ち進むことが出来ました。短かい練習時間の中で、いかに効率よく実のある練習を『どう行うのか』いつも考えていたように思います。そして、試合では『あせらず、気負わず、弱気にならず』を肝に銘じて、日頃の力が出せるよう心がけました。部員やOB会に支えられて素晴らしいゲームができ、本当に感動しました。

これからは、隣りの奥道高校ですが、西高で学んだことを生かして頑張りたいと思っています。最後になりますが、西高同窓生のご健勝をお祈りいたします。どうも、ありがとうございます。

